

2019年度 施策マネジメントシート【2018年度実績評価】

作成：2019年6月11日

施策番号 3-2-3	施策名 道路交通環境の整備	基本目標 快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり 政策名 都市空間の整備と有効な土地利用の推進
	主管課 建設都市整備課	課長名 橋本 直樹 内線 440
	施策関係課 企画財政課	

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
道路交通、公共交通における移動の快適性、利便性の向上をすすめます。		町民	・交通アクセスを強化する ・目的地までの快適な移動、利便性の向上をすすめる				安全で快適な生活を送ることができる
成果指標		説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標
① バスやJRなど 公共交通機関の利用に満足している町民の割合	住民意識調査	%	42.4	38.4	38.1	50.0	
② 冬期間の移動(徒歩、車、公共交通機関等)は、安全安心と感じる町民の割合	住民意識調査	%	58.1	47.9	52.2	60.0	
③							
成果指標 設定の考え方	①公共交通機関に対する町民の満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定 ②冬期間の移動に対する満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費（千円）	624,298	662,405
人工数(業務量)	5.4775	6.0024

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は前年度より低下(微減) →高齢化と公共交通利便性への関心高まりが主な要因 成果指標②は前年度より向上 →除雪状況に対する効率的な除雪作業等が主な要因
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	①各交通機関の利用状況を分析し、課題点に対する対応策を講じることで満足度向上 地域の状況から自動車依存度が高く、コミュニティバス(じゃがバス)以外は町の施策での満足度向上は難しい ②除雪作業に対する理解度を高めることで目標値に近づけることは可能 降雪状況(降雪時間帯・降雪量)により満足度は大きく変動
(2)施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	地域公共交通確保対策事業 町道・歩道・駐車場等除排雪事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	●道路パトロールと維持修繕 →パトロール強化及び損傷か所の早期発見、修繕を目的とした「道路施設維持管理業務」を民間会社で組織する組合に委託し、道路利用者の安全確保に努めた。 ●除排雪作業 →降雪及び風雪状況に応じた除雪とパトロールを適宜実施し、冬期間の道路利用者の安全確保に努めた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E	A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した
				○		
※該当に○印						

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	«施策を取り巻く状況» ・農業生産機械や輸送機械の大型化に伴い、安全な道路構造が求められている ・橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕の推進が求められている ・早期除雪及び排雪路線の拡大を求める町民の意見が多く寄せられている «今後の予測» ・道路施設の経年劣化により、広範囲によるオーバーレイ及び改築補修の増加が見込まれる ・各路線の実態に沿った整備基準を確立し、整備の進捗を図る必要がある
	・災害時の道路状況について、通行止め等の対応を地域と協同でできる仕組みがあると良い ・公共交通に対する満足度の向上を図るために、時刻表の改善などを町からの働きかけもすべきである ・農村部と市街地を結ぶ公共交通について、実態にあわせた運行形態を検討してほしい ・ICT技術を活用した効率的な道路交通環境の整備推進を検討すべきである

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

●課題① 安全で安心な道路環境の整備

老朽化した橋りょうの修繕、交通安全施設や緑化、省エネ街灯などの環境対策、案内標識の整備、高齢者や障がい者など、多様な人々に配慮した道路環境整備を計画的に実施する。

冬期間における除排雪対策を含め、車道・歩道の適切な維持管理を行うため、拠点となる車両管理センターの移転改築を進める。

●課題② 交通弱者への交通手段の確保

より利用しやすいバスの運行方法や農村部における交通手段の確保について検討する。

6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	冬期間における除排雪を含め、道路の維持管理に対する町民からの評価は高いため、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
				○			
今後の取組に対する意見	計画的に進めてもらいたい。		A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価と同じく、除雪も含め安全安心な道路維持が行われていると考えられ、策定期と比較して前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
				○			
今後の取組に対する意見	町外から芽室町内の除雪はきれいだという評判もあり、今後も除雪も含め、適切な道路の維持管理を行ってもらいたい。		A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した				